

## 田村 緑 interview インタビュー

三重県文化会館とピアニストの田村緑さんがタッグを組み、三重県に約1ヶ月(2016年1月15日~2月17日)滞在し、県内各地で様々な取り組みを行うアーティスト・イン・レジデンス。今回の意気込みを、企画担当者から田村さんに伺いました。(聞き手:三重県文化会館音楽事業係 藤田祐輝)

### ARTIST IN RESIDENCEとは??

アーティスト・イン・レジデンスとは、アーティストが一定期間、ある場所に滞在して制作を行うこと。

全国的に活躍するアーティストが1ヶ月間、三重に滞在し、従来の企画よりもより地域に入り込むことで、大学や他の劇場等とも連携し、滞在制作ならではのオリジナリティのあるプログラムを展開します。初めて開催となる今回は、ピアニストの田村緑氏とともに、様々な企画にチャレンジいたします。



そこに聴いてくれる人がいる限り演奏をする。

### —率直に、1ヶ月のレジデンス(滞在)と聞いて、どう思われましたか?

とにかくやってみよう!と思いました。もちろん、今までやったことがないですし、まさに「未知との遭遇」です(笑)。私たち演奏家が奏でる音楽は、基本的に瞬間芸術・時間芸術と言われるもの。その場その時に生まれる音楽と、そこで聴いてくださる方との出会いは一期一会だと思っています。イギリス留学から日本に帰国して13年経ちますが、コンサートホールでの演奏活動に加えて、地域に入っていき活動をさせていただいています。この三重県文化会館にも毎年のように呼んでいただいています。三重県各地でコンサートやワークショップなど、様々な活動をさせていただき喜びを感じながら、1回で終わってしまう寂しさを感じることもあります。一期一会の機会であると同時に、この出会いがずっと続いていったら、どんなに素敵かなあ、とたびたび思うこともあります。

いつもそう感じながら演奏をしているので、1ヶ月滞在させていただくというお話をいただき、すごく「夢」を感じました。私の理想に近づく夢です。いつもより長く滞在させていただく間にどうなっていくんだろう。1回で終わらないとは、逆に何ができるんだろう。そんな未知の世界を三重の方々と一緒に体験できる、私にとっては初めての経験であり、一生に一度の経験になるかもしれません。もしかすると、滞在が終わる頃には、三重に住みたい!と言い出しているかもしれませんね。(笑)

### —田村さんが三重県の皆さんにアーティストとして届けたいものは?

「魂に響く音楽」をお届けしたい。「音楽」は自分にとって何なんだろう?っていつも考えているのですが、私は「Food for Soul」…「魂の糧」だと思うんです。音楽は楽しみであり、喜びであり、泣けるものであり、心を動かされるものです。どんな感情をも呼び起こす音楽の懐は本当に深い。そんな音楽をみなさんにお届けできたらと思っています。

1ヶ月滞在している間に、三重で生活して、三重の空気を吸って、三重の人たちと話をし、自分もそこでいろんなものを吸収させていただくうちに、私自身も変わっていくと思うんです。

今回のレジデンスは一期一会が折り重なっていくイメージです。長い時間をかけることで、いったいどこに到達するんだろうと考えるだけでワクワクします。私は演奏家です。演奏に、音に、私の全てをのせていきたい。そして、今回の滞在を両手に例えれば、片手に「音楽」、片手に「三重」でしょうか。滞在中、「音楽」と「三重」が融合したものが現れてくれるといいなって思います。それはどんな形なのか…本当に楽しみです。

—田村さんには何度も三重に来ていただいています。田村さんのように、音楽に対して熱い想いを持った人が、ぜひ三重でも活躍してほしいという想いを込めて、ミエ・アート・ラボと研修講座の2本立てを組ませていただきました。私自身も、ホール職員育成研修にて田村さんと出会い、感化されたことが今の仕事につながっています。そんな「熱い出会い」がここで生まれるのを楽しみにしています。

音楽のある場所とは、そこに聴く人、奏でる人があってこそ、言わば「人と人が音を通して出会う場」だと思います。特に今回の研修や育成の現場では、音を通して出会う場の意味をじっくり掘り下げられ、また、自分自身と対峙する時間を持てる、レジデンスだからこそできる企画だと思うんです。熱い出会いが生まれる確率もアップし、今回の出会いが、また次の出会いを作り続けていくイメージもあります。今後、レジデンスを通し、三重に残り続ける財産を、一つでも多く生み出したいと思っていますが、最も大切な財産こそ「人と人の熱き出会い」だと思っています。



### —最後に三重のみなさんへ一言お願いいたします。

「魂」に響く音楽、「魂の糧」である音楽は美しいものです。今回は、それを一人でも多くの方にお届けしたい。受け取っていただきたい。自分も受け取りたい。そして共有していきたい。

約1ヶ月三重県に滞在している間、何度も皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。



### Midori Tamura

東京都出身。桐朋女子高等学校音楽科を卒業後、英国財団の奨学金を受け渡英。ギルドホール音楽院ピアノ科首席卒業を経て、シティ大学院音楽部演奏学科修士課程を修了し1998年よりパフォーマンズフェロー(特別研究員)としてギルドホール音楽院に勤務。第4回インターカレッジ・ベートヴェン・ピアノコンクール第1位、ダドリー国際ピアノコンクール現代音楽最優秀演奏賞をはじめ、室内楽でも数々の賞を受賞。1991年ロンドン初リサイタル以来、日英文化祭、殿堂ウイグモアホールでのリサイタル、BBCテレビ・ラジオに出演するほか、ソリストや室内楽奏者として、ドイツ、フランス、アイルランド、デンマーク、アラブ首長国連邦へコンチェルトソリストとしてユーゴスラヴィアやオーストリアを巡る。帰国後、その躍動感に満ち、情感あふれる演奏スタイルと、在英経験を活かした独創的プログラムが目ざされコンサート活動を始動。2002年より(一財)地域創造・公共ホール音楽活性化事業登録アーティストとして、全国各地でコンサートおよびアウトリーチ活動を行う。2007年度、日本音楽財団「クラシック音楽演奏家による公立小学校の音楽授業サポートプログラム」助成事業では、コミュニティ音楽活動で先端を行くトリトン・アーツ・ネットワーク(第一生命ホール)と1年間に渡る画期的モデルを実践。2009年~10年度、(一財)地域創造・公共ホール音楽活性化事業・応用プログラムでは、福岡県直方市/コミュニティのおがたと「ピアノ・コンサートに繋げる連続ワークショップ・連続アウトリーチ」を共同プロデュース。2011年以降せたがや文化財団音楽事業部と、楽曲を深く楽しく理解するワークショップ「モーツァルトを大解剖!ねんどでアナリーゼ」「変奏曲をアナリーゼ」「展覧会の絵を100倍楽しむ方法」他を開発。音楽の感動を演奏で伝えるとともに、聴き手にとって音楽を楽しめる体験とするために、様々な手法を生み出すピアニストとして貴重な存在である。ピアニスト田村緑公式ホームページ <http://www.tzmz.net/>